



からしだね

2021年1月号
(566号)

キリストの受難 カトリック池田教会

主任：ノノイ・プラザ神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：<http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm>



本号の記事の主題など

巻頭言：島 基幸司祭

「新年明けましておめでとうございます。

夢を見ましようーより良い未来への道筋の
夢を！」

みんなの談話室…短歌2首と俳句2句

1月のガラスケースのみことば

第3波コロナ禍の中で教会樹木剪定会

耐震化された聖堂が

大阪府建築業界誌に紹介されました

1月の年間行事予定の変更

稲葉司祭叙階式のYou Tube動画をDVD化

今月の表紙絵について

巻頭言

新年明けましておめでとうございます。

「夢を見ましようーより良い未来への道筋の夢を！」

ミャンマーミッション 畠 基幸 CP

新型コロナウイルス感染症の流行拡大が世界規模で広がっています。私も昨年9月に政府派遣の帰国便の最終便に乗り込み、帰国を果たしましたが、再びミャンマーに戻るのには難しい状況です。12月の時点では、ヤンゴン市内で一日に1000人の陽性患者数を数えています。空港はしばらく閉鎖されて一般旅行者は入国できなくなりました。そのため、ビザの再発行まで、しばらく日本に滞在しなければならなくなりました。

ところで、「神は平和をもたらし、災いを創造する者」という表現が聖書(イザヤ書45章7節)にあります。またダビデが自国の戦力を調べるために人口調査を行った(サムエル下24章12~14)際、神の怒りに触れ、預言者ガドを通して3つの災いが示されると、三日間の疫病を選びました。なぜなら、主が憐れみ深い方なので人間に委ねるより、主に委ねる方がましだと思ったのです。そして、事実主は減ぼすことを思いなおされたのです。自肅して部屋に閉じこもる「隔離」の期間、私たちは、神の創られた災いとまでは思いませんが、これらのことが起こったのには何か神からの平和のメッセージがあるのではないかと考えます。私たちのフランシスコ教皇様は、幾つかのヒントを一般謁見の中で語られました。「パンデミックとその後」の中に、それらはまとめられていて、「寄り添うことの大切さ」が際立っていました。この降誕節には新刊書「夢を見ましようーより良い未来への道筋」を発行されています。この二冊目の本はまだ見ていませんが、カトリック新聞12月6日発行第4555号には、教皇自身の「隔離」の体験を開示して、その後のより良い未来への道筋を選ぶ大切な時となった思い出などが要約されています。教皇自身は、その時こそ、教区司祭への道からイエズス会の道へと召命の道を明確に示されたのだと述懐されています。

それにならって、私も、この「隔離」の期間にミャンマーミッションの「夢」を実現する道筋を模索しています。その「第一の夢」は十字架の聖パウロのカリスマをミャンマーの国土に移植して、修道院とその使徒職を発展させるということです。これは、総長ヨアキム・レゴ神父の夢です。その「夢」に私は馳

せ参じて、この一年の間に、聖心小神学校の旧哲学院の教授室5部屋を改装して修道院として転用し住み始めました。このままでも、講話室があり、宿泊設備があるので黙想の家あるいは研修センターになりそうです。ところが、コロナで外出できず、この場所に一人で自肅して7カ月過ごすうちに、この場所は研修会にはよいが養成の家としては不向きだとわかり、修道院の建物ではなく「共同体」を建てるための良い土地はないだろうかと思いつきました。小神学校に通うのに近く、交通の便がよく、十分な土地の広さと人々との近さを感じることでできること。考えるうちに一つの家のビジョンが見え、よく見ると一度訪問したことのある孤児院でした。もしかしたらと、急いで見に行くと、自転車で7分以内のところ、土地も修道院を建て、養成の家を作るには十分な広さがありました。そこの担当の司祭や小神学校のスタッフたちと意見を交わして、私たちの会の養成の家として最適な場所だと思えるようになりました。そして、何よりも私の心を喜ばしたのは、「共同体」の要となる子供たちの存在です。

教区には、5つの孤児院があり、主にパテイン市に集中して女子の孤児院2カ所と男子の孤児院2カ所、男女の孤児院1カ所があります。孤児院が多いのは、この国の公衆衛生、医療体制の不備が一番に考えられます。子沢山で若死にする両親が多いのです。幼児労働問題も健在です。小神学校に近い孤児院の名前は、「ファミリーホーム(家族の家)」です。20名の子供、8年生から10年生まで(中学2年から高校1年)。中学校にあたるものを高校と呼んでいます。この国のわかりにくい教育制度は日本のODA(JICA)の支援により改革中です。高校卒業時、国際標準の12年間の就学が不足しているため、中学卒者として扱われ国際労働市場では不当な低賃金で雇われる。最も低い労働賃金で働いています。

さて、この孤児院の経費は、食費・教育費を合わせて一人一カ月5000円、20名で10万円の費用が掛かります。教区が7割負担し、残り3割を香

港とフランスの小教区が分担して運営されている。教区は飲料水の会社を運営して、この孤児院の費用を賄っている。もう一つの孤児院は教区から委託を受けて男子ザビエル修道会のブラザーが担当している。ブラザーによれば、孤児院の子供たちは、小神学校の子より成績がよく、成績のよい子供たちは、警察や国軍の奨学金をもらって大学へ行くという。女子の孤児院は、ザビエル女子修道女会が技術専門学校へ送って自活できる力をつけるように面倒を見ている。また成績のよい子を大学へ送り、その中から希望者を修道女会へ受け入れる道があるようです。中には、上智大学とミャンマー司教協議会との契約で2名の全額給付の奨学金制度があるのですが、毎年一人はこの教区の孤児院からの卒業生が合格していることも聞きました。このような聞き取り調査をしているうちに、第二の「夢」が湧きあがってきました。子どもたちに「夢」を与えたいと思うようになりました。子どもたちの夢に寄り添って、その夢を実現するように手助けしたい。外国人の修道者がそばにいただけでも刺激になるが、一緒に祈り、食事し、遊び、学ぶことで子供たちは変わるはず。学校へ行きたい子供たちのために、大学生寮をつくる。大学生の

中から志願者を見つける。大学へ行かない子供たちには、専門学校へ通わせる。それと同時に日本語を教えて技能実習生で日本に送る。いろんな技術を学んで帰ってくれば、地域が活性化する。また、孤児院と修道院が彼らの第二の故郷として定着すれば、御受難修道会の支援者となって応援してくれるのではないかと期待したい。私の残りの人生に対しては、このプロジェクトは大きすぎるが、夢は希望を与えてくれました。

ミャンマーの教会は長く閉ざされてきた。また経済封鎖により外国の支援も受けられないなかでも発展してきた。さりとて修道会を支援するほど教会は大きくはない。ミャンマーの御受難修道会も初めから外部の支援に頼らないで自立存続できるように考えねばならない。そのための最初の踏み台がどうしても必要だと思うのです。そこで何とかやりくりしたり、アイデアを出したり、皆さんの支援に助けられながら「二つの夢」の発端を始めたい。

2021年パンデミック後の新春の夢です
本年もよろしくお祈りします

みんなの談話室

短歌二首（冬のうた）

パウロ

うつくしく蜜柑の皮をむく指を見て
をれば冬の花ひらく卓

親^{みたり}子三人こたつに温もるさきはひは
^{サクラファミリア}聖家族にはとほけれど



俳句二句

マリア・クリステイナ

キクといふ名を持ち凜と修道女
追憶に桜もみじの降りしきる

1月のガラスケースのみことば

いと高きところには栄光、神にあれ、
地には平和、御心に適う人にあれ
ルカ 2・14
(福音宣教委員会撰)

第3波コロナ禍の中で教会樹木剪定会

総務委員会

待降節を目前にした11月25日に池田教会の敷地に育つ樹木の剪定があり、来るべき新春に新芽が育つ環境が整えられた。

篤志家による手当で派遣された3人のシニアの剪定職人が暑かった春と夏の季節に教会中庭で伸びすぎた2本の高木(イヌマキや雌のモチノキ)と西側敷地にある旺盛に成長する3株のアラガンとコガネモチ、アダン、金木犀の若枝が落とされた。教会の中庭にある中背のモチノキ(雄)や南国有ちのソテツの長い葉や伸びすぎたコウヤマキとモッコクやアオキの小枝も漉かれて、司祭館に向かう敷石から聖堂内部が垣間見えるようになり、マリア像の周囲にある季節の可憐な花が足元で咲くのも目に飛び込んできた。

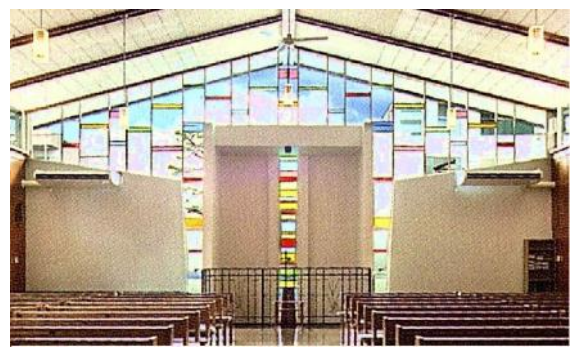
カール記念館の東にあるカイズカイクキの高い垣根は電動バリカンできれいに面取りされた。昨年8月に完工した聖堂の耐震工事施工に先立つ5月には聖堂の東側側面の植樹されていた垣根のカイズカイクキとソメイヨシノの若木と古株は取り除かれ、公道からの最大2メートルの地面に一面に8月末に植えられた一部が浮き出していたタマリユウ

の根は柔らかな土で抑えられ、公道境の石垣は聖堂耐震工事後に土砂の流出を防ぐように整備されている。聖堂の東壁面に外部に後付けされていた空調装置が取り除かれて南北に対照的に羽を広げた聖堂東面の姿が公道から望めるようになった。(本ページ下部の大阪府建築事務所協会誌に掲載された聖堂耐震工事を担当したN2設計社の投稿写真を参照)

聖堂の南面でも、一列に植栽されていたツバキやナンテン、モミノキはその耐震補強工事で姿を消し、東西に走る通路から聖堂南の白色壁面がすっきりと見えるようになった。聖堂入口脇に置かれた手水鉢にどなたが置いたのか季節の花鉢が美しく映えていた。

第3波のコロナ禍が始まった時期にも拘わらず、10時ごろから25名を越す信徒(主にシニア)のみなさんが剪定された枝葉を袋詰めする作業を行い、従来の半分の時間で済ませることができた。カール記念館一階ホールと中庭に距離を置いて撮った昼食後に清掃と道具の片付けをすまして剪定会は13時に終了した。

耐震化された聖堂が大阪府建築業界誌に紹介されました



耐震工事で創建当時の姿に蘇った聖堂の写真と説明が大阪府建築事務所協会誌「MACHINAMI 11,12 (2020)」に紹介されました。

耐震補強による継承～祈りの空間と景観

築55年のカトリック池田教会を、「聖堂に集まった方々の命を守る」ことを最優先に耐震補強を施し、長く親しまれてきた聖堂の内・外部空間を可能な限り継承することを目指した。正面スタンドグラスから両側

ハイサイド窓、祭壇までガラスが連続し、軒の深い緩い勾配屋根をふわっと浮かせた聖堂内部空間を損なわないよう耐震部材はスリット窓の外部に設置し、建設当初の明るい空間を取り戻した。外観も建設当初の白い鳥が羽を広げたような左右対称ファサードを甦らせ、耐震部材を隠す十字架プレートがアクセントを加えて落ち着いた佇まいを醸し出している。

(N2設計 辰巳清一)

稲葉善章司祭叙階式の You Tube動画をDVD化

昨年9月26日に行われた稲葉善章司祭叙階式はYou Tube動画（1時間40分）として公開されました。その全記録をDVD化して、カール記念館一階ホールの北面にある黙想会CDボックスに収納していますので、ご視聴ください。

この司祭叙階式はカトリック池田教会としては1964年と1993年に次ぐ3回目であり、トマス・アクィナス前田万葉大阪大司教らによって司式され、御受難修道会日本準管区の司祭・修道士の方々が共同司式者や侍者として、また、池田教会の信者も先唱者、第一朗読者、聖歌隊、侍者として、叙階ミサに参加しました。

「からしだね」11月号にはその詳細が掲載されたので、ご参照ください。



1月の年間行事予定の変更

- 1/1(金) 11:00 元旦ミサ、新成人の祝福を1/3(日)10:30に変更。
- 1/2(土) 11:00 主日ミサ
- 1/3(日) 8:30・10:30 主日ミサ
- 1/10 定例評議会の中止
- 1/12 ドレミの会もちつき中止
- 1/16 中高生のお泊まり会中止
- 1/17 食物の奉獻 中止。
- 1/17 「からしだね」2月号原稿締め切り
- 1/20(水) 釜ヶ崎訪問 中止。
- 1/23 子どものお泊まり会中止
- 1/24 大人の日曜学校の中止。研修委員会を29日に延期。

黙想会のお知らせ

宝塚黙想の家

■日帰り黙想会 10:00~15:30

1月12日(火)

指導：稲葉 善章 神父

1月21日(木)

指導：染野 治雄 神父

1月22日(金)

指導：山内 十束 神父



■一泊黙想会

1月30日(土) 17:00~31日(日) 15:30

指導：山内 十束 神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。 ☎0797(84)3111

今月の表紙絵について

イタリアのラヴェンナにある、AD505年に東ゴート王国の宮廷に隣接して建造されたサンタ・ポリナーレ聖堂は、美しいモザイク画が今なお残っていることで知られている。聖堂は世界遺産となっている。その壁面に「天使に囲まれた聖母子」のモザイク画があり、その一部が表紙の三賢人である。ご公現は神の栄光がキリストを通して現れたことを祝う日であるが、とくにカトリックでは占星術の3賢人の来訪と礼拝によって、キリストによる救いが世に示されたことを記念している。撮影はNina Aldin Thune。

編集後記

2020年は世界史に残る一年となった。ほぼすべての国で新型コロナウイルス感染症が蔓延し、世界中がいわば鎖国状態となった。どこの国でもマスクを着けて外出するのが当たり前となった。さまざまな面で日常生活が歪んだ。池田教会でも行事が中止となった。ミサの形式も変わった。コロナウイルスはこれからも毎年変異を遂げ、流行が常態化するのであろうか。それでもありがたいことに、池田教会がクラスターの発生源となることはなかった。私たちは静かに耐えている。静かに疫病の終焉を祈っている。そして主の存在を感じている。

ソフィー